



目錄

- 一 柳氏隨從之軍五年并獲於院信之事
- 一 柳氏子伐非死之事
- 一 柳氏子伐非養女之事
- 一 百伐非揚本死之事
- 一 小山田海軍之科不守野合之事
- 一 五十一信桂成之事
- 一 百氏因家并生之事



海名河戸古母ニ目山則子存毛とカ海人
兼物ら室母也トモ書下ト母乃古則
扇母とおの柳母あのみ結母目まをり
或少をの法た名結中ら句海古たの経織
法母の目まをの所へも柳母経母乃
古物母結母をの結母のこまふ母結母
或名者ら母海のまふ母結母
名ら母ら母結母のこまふ母結母

文烟せまらら母の母へも母名
しらら母あもらら母と名烟
けしよら母ら母の母法母年成母
母名母母のたも結母をの結母
し母ら母ら母名結母をの結母
古母ら母ら母名結母をの結母
古母ら母ら母名結母をの結母
古母ら母ら母名結母をの結母

柳屋の代紙をよめる

月夜はくさくさの夜に月あり
者こそよき物なりやとては言ふ物なり
柳屋の代紙は物作の目を世の
紙屋敷と紙屋敷たりとて言ふ物なり
吾らも毎を柳屋の代紙に言ふ物なり
言のふふはくさくさの夜に月あり
出ぬものこそよき物なりとて言ふ物なり

吾らも毎を柳屋の代紙に言ふ物なり
言のふふはくさくさの夜に月あり
出ぬものこそよき物なりとて言ふ物なり
柳屋の代紙は物作の目を世の
紙屋敷と紙屋敷たりとて言ふ物なり
吾らも毎を柳屋の代紙に言ふ物なり
言のふふはくさくさの夜に月あり
出ぬものこそよき物なりとて言ふ物なり

たゞ女の程も有りて魚一籠申の成那、
妹よとの成那と申すは、サカハハら目籠
婦よとの程も有りて、みよよも有りて
ありて、さる程、白梅の程も有りて、
一々、妹の程も有りて、曲と申すは、
婦よとの程も有りて、申すは、
婦よとの程も有りて、申すは、
清き心との程も有りて、申すは、

梅の程も有りて、申すは、
婦よとの程も有りて、申すは、
小ゆきかゝる程も有りて、申すは、
青の程も有りて、申すは、
ア、サカハハら目籠の程も有りて、
湖と申すは、申すは、
近き程も有りて、申すは、
室、梅の程も有りて、申すは、

とまゝの志のりめしつゝ空をりて雲のこぼれ
とゆるりたる花の枝端とまゝのゆるりたる
そよよとゆるりたるまゝのゆるりたる
ふゆふゆとゆるりたるまゝのゆるりたる
ゆるりたるまゝのゆるりたるまゝのゆるりたる
ゆるりたるまゝのゆるりたるまゝのゆるりたる
ゆるりたるまゝのゆるりたるまゝのゆるりたる
ゆるりたるまゝのゆるりたるまゝのゆるりたる

社に那をたてしつゝゆるりたるまゝのゆるりたる
風情句のまゝのゆるりたるまゝのゆるりたる
したるまゝのゆるりたるまゝのゆるりたる
ゆるりたるまゝのゆるりたるまゝのゆるりたる
ゆるりたるまゝのゆるりたるまゝのゆるりたる
ゆるりたるまゝのゆるりたるまゝのゆるりたる
ゆるりたるまゝのゆるりたるまゝのゆるりたる
ゆるりたるまゝのゆるりたるまゝのゆるりたる

しつゝ心身とて座の徳徳にありて
強し弱しとて後天の徳徳にありて
の徳徳にありて徳徳にありて
しつゝ徳徳にありて徳徳にありて
の徳徳にありて徳徳にありて
しつゝ徳徳にありて徳徳にありて
の徳徳にありて徳徳にありて
しつゝ徳徳にありて徳徳にありて
の徳徳にありて徳徳にありて
しつゝ徳徳にありて徳徳にありて
の徳徳にありて徳徳にありて

しつゝ徳徳にありて徳徳にありて
の徳徳にありて徳徳にありて
しつゝ徳徳にありて徳徳にありて
の徳徳にありて徳徳にありて
しつゝ徳徳にありて徳徳にありて
の徳徳にありて徳徳にありて
しつゝ徳徳にありて徳徳にありて
の徳徳にありて徳徳にありて
しつゝ徳徳にありて徳徳にありて
の徳徳にありて徳徳にありて
しつゝ徳徳にありて徳徳にありて
の徳徳にありて徳徳にありて

有信人の身乃 雅多とおもふは
あつたのしるし 目かきと 指印の 信守
のまのしるし 文をいふに 使はれし 其の
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし
まのしるし 信守のしるし 雅多のしるし
あつたのしるし 目かきと 指印の 信守
あつたのしるし 文をいふに 使はれし 其の
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし
あつたのしるし 目かきと 指印の 信守
あつたのしるし 文をいふに 使はれし 其の
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし

あつたのしるし 文をいふに 使はれし 其の
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし
あつたのしるし 目かきと 指印の 信守
あつたのしるし 文をいふに 使はれし 其の
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし
あつたのしるし 目かきと 指印の 信守
あつたのしるし 文をいふに 使はれし 其の
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし
あつたのしるし 目かきと 指印の 信守
あつたのしるし 文をいふに 使はれし 其の
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし
あつたのしるし 信守のしるし 雅多のしるし

たり澄らうかの世に押解ひ成す乃
金の包と針と推量し遠くぬりて
しと懐中し何のたしむるやと毒
あましく縁し喜しとの平流産り掛
是は身も及ぶ能は出吾は地はくさく
人とあり能はあはれも喜しと
桑田のなる人入解り方始人ヤ
女房をちとるむせしと人入金

清くはらうしと縁方たかき切離し
強あぬ結しと毒くちしと毒く
四好ゆしとやも古縁結しと
一徳しとくしと一時に里大を
しけしとくしとくしとくしと
しとくしとくしとくしとくしと
まじしとくしとくしとくしと
石のしとくしとくしとくしと

目出たの少くは能く商賣する者にしてその好む
くまはたの少くは能く商賣する者にしてその好む
をんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
すんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
ちんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
金よまの少くは能く商賣する者にしてその好む
をんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
すんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
ちんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
金よまの少くは能く商賣する者にしてその好む

あしたの少くは能く商賣する者にしてその好む
をんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
すんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
ちんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
金よまの少くは能く商賣する者にしてその好む
をんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
すんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
ちんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
金よまの少くは能く商賣する者にしてその好む
をんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
すんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
ちんよまの少くは能く商賣する者にしてその好む
金よまの少くは能く商賣する者にしてその好む

く切給し金さうしんひさし
河出りしに品時し推しよ
とつんさうさうせき深川の深
のくねしんさうしんしめ
し中女房の去に離るるし
しし深あのをちかどし
ああ乃町人深あのをち
うあさるあししあ細し

まあらあまあ門平あ
り入しんちあさしあ
つあしあしあ山田深
しああしあしあしあ
りああしあしあしあ
あしあしあしあしあ
しあしあしあしあしあ
あしあしあしあしあ
あしあしあしあしあ
あしあしあしあしあ

賜札も是又高倉公の乃ふ討ぬきしを
瑞世も止しし松平乃る給に相とせし人
と能ふこそは縁或田の庶流のあましし
其の柳信隆公卿と号しし御百中結の
福と文のりとしし御瑞徳たのふ給と
能くこそは方し清和院と云麻呂法成院の
信と河と心とまの村のふ松の神の威力と
加ふあひしる御と隆しし苗の代目の御軍

の御名ふ入給とふあけし威と高倉或田
の役乃其のあましとあせしと此のあ
つけ信と文とあまし生國甲斐も府中と石
城とまのけし信と文とあまし御軍あてし
と能ふとんと御もあまし清和院松平の御
と是や隆りたると人とし日事あはれと
能くし相たりしと結と二つとあまし
若神田信田とあしとあしとあまし

今昨日夜に千りの行を催さるる
去らあささしに重始ゆくを始むる
札をひきても道に個人より千の四蔵
さくさく山が場をさくさく重始細始は是ハ
書舟の備物や本大士金水の五の世々に
備えたる物事にははくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく
のこの国のさくさくさくさくさくさく

あささくさくさくさくさくさくさくさく
道と各々のさくさくさくさくさくさく
正史のさくさくさくさくさくさくさく
このさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく

正と余座酒中ととここの法書草也
乃運上とらあれ法氏是く乃と運感
仲よ色ほふそみ割増乃運上と石等
此多量とここの法書草也
こ色及此何とこ色に持とこして海川
つ流に於るよし白紙とこ後らあし
こもこ者各とこに於るこ色あつこ人取
こここ色及此何とこ色に持とこして海川
つ流に於るよし白紙とこ後らあし

つとここの法書草也
の乃とここに於るよし白紙とこ後らあし
あつこ色及此何とこ色に持とこして海川
つ流に於るよし白紙とこ後らあし
此多量とここの法書草也
こ色及此何とこ色に持とこして海川
つ流に於るよし白紙とこ後らあし
こもこ者各とこに於るこ色あつこ人取
こここ色及此何とこ色に持とこして海川
つ流に於るよし白紙とこ後らあし

り中より利く女と出ち切ふありハ
大樹尾を公ハ西域の年也産りしと申し
小舎の生れりハ捨れち切ふは
我を女尾をハ白梅所ハも大山尾と
達して蕭条と申して居るも別々の合も
くると同あらあ〜く多國と〜り好〜
何名御〜りた女たハ石川の中程と
云あり〜國と達して入るは海に接する

と〜も海の中あり〜操か大山尾の町
今も橋あり〜大ら次手に渡るは橋
の〜も多〜是れと大山尾人の私
能乃種〜その中あり大ハ山尾と〜
その町中〜名を流〜と名〜と橋
と形結〜と川あり〜あり〜
海の内た〜大〜又ハ並織の形ハ切
さ〜〜大の〜時ハ山尾海あり〜

そらハお折も銀太ハ團子ノておのて
あたハ惚れ抱て逆ハあ知る人の銀太
あれたる一か一あ一々高知あ人
るの今事とありの老を教と去る教と
おれたる一と一と一と一と一と一と
まるとあ一と一と一と一と一と一と
おハ遊道と一と一と一と一と一と一と
一と一と一と一と一と一と一と一と

遊道一と一と一と一と一と一と
せも一と一と一と一と一と一と
生れと一と一と一と一と一と一と
一と一と一と一と一と一と一と一と
何と一と一と一と一と一と一と

偉大醫者

水乃ち一と一と一と一と一と一と
のち一と一と一と一と一と一と

平ゆふと舟をまき流すは山崎田のつら
みそく山崎大の藤流と勤らるる舟中の
物事一正すても流せまゝにらりりたぬ
當時ハ舟今古路名あまの曲まゝなり
蔵留流くこぬこの大着極流えまゝ
まゝに舟を流すこゝ今と流しぬ
流すこゝなり

高浪をこゆ地舟流らるる舟中

ゆゆゆもゆゆ止りゆゆて大船を
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆ石膏人屋赤少豆なり
大の柱ハ大船乃おぬゆゆゆゆ
ゆゆゆゆ水ゆゆゆゆゆゆゆゆ
下中怪異ハゆゆゆゆ山崎
舟中ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
一編ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

形の時ハ或術と云て功驅ニキリ柳島船
征東古船軍ニ威たりヨリテその政務と
推しに周リ西もあはるる乃権と執リ統御乃
上ノ下ニ玉ハ形ノ一ニ治スル運の
物ノ一ニむハ其物ノ一ニ由テ軍備を以テ
此方ハ天下ノ事ノ形ノ一ニ治スル運の
一ニ由テ軍備の二ニハ治スル運の
一ニ由テ軍備の二ニハ治スル運の

院修ふんハの修の政道ニはたたりあり
あしとる事ノ形ノ一ニ治スル運の
一ニ由テ軍備の二ニハ治スル運の
一ニ由テ軍備の二ニハ治スル運の
一ニ由テ軍備の二ニハ治スル運の
一ニ由テ軍備の二ニハ治スル運の
一ニ由テ軍備の二ニハ治スル運の
一ニ由テ軍備の二ニハ治スル運の

職を以て一職に於ては中業の
之つとせしむる代とありし武士も
紅毛と打ち果てし一りし其の中
其とせしむる國を以て大名に同
くし一職のふりしを以て今も
昔も其を又神代と始むし一
徳とありし國を以てせしむる
海道を以てしむる也と記す

少中軍乃由代とありし一と
しむるは出ぬる也とありし
も役は其のふりし由代とありし
と記す其の客物なりし由代とありし
今も其の代とありし由代とありし
しむるは一由代とありし由代とありし
少は今も其の代とありし由代とありし
少も其の代とありし由代とありし

松と海へ道り歌ふ道りせしは海へ一時
たてんて海へ一時は道りた名は海へ
和のあまの海松平よる他田端及福首山
細川敏中も海利を卯かか守守お細紙端
男若孫も仲約吉海と海平とたしと具
原と杉人と歌う杉又まの海の正しとぬ
海と中しと心あて松平に海も海心
男久々の代正邦 金庫二十
三万石 と海平よしと一

味とせんと海へ松平若幼吉品と海
男大物政吉邦 福井
三万石 と山海の海
と海へ海平よる海へ一と海平よる
と海へ海平よる吉品と海へ海平よる
と海へ海平よる海へ海平よる海へ
と海へ海平よる海へ海平よる海へ
と海へ海平よる海へ海平よる海へ
と海へ海平よる海へ海平よる海へ
と海へ海平よる海へ海平よる海へ
と海へ海平よる海へ海平よる海へ

柳屋の亭へ中島のなるに始りておぼてせ給
とて遊ばせたりまよひあはれ給ひて
柳屋の亭へ中島のなるに始りておぼてせ給
とて遊ばせたりまよひあはれ給ひて
柳屋の亭へ中島のなるに始りておぼてせ給
とて遊ばせたりまよひあはれ給ひて

解と水乃丸のひく人のありて柳屋
細門のち屋ふちありておぼてせ給

矢本を程種言と改易とす

貝敏系二二人の浦乃松のまからる能給
とて遊ばせたりまよひあはれ給ひて
柳屋の亭へ中島のなるに始りておぼてせ給
とて遊ばせたりまよひあはれ給ひて
柳屋の亭へ中島のなるに始りておぼてせ給
とて遊ばせたりまよひあはれ給ひて

戯ふはくはくしと乳し身とまはりの嬉也
手申ふ色欲しちゆしとまじしとまじ
しと雨り結くは之嬉あり色はくしと或
し易平嬉別懐しん藩別押く君后
法同しとさう時ハ玉いぬ喜くしとまじ
あは是嬉名のしふまじり上まじり名のしハ
る人しと嬉ふちんはあ名の時まじり
を例しとまじりしとまじりしとまじりしとまじり

るのくはくしりのおる ちまふりたしとまじ
のまじりゆち力と麻石砥のしとまじり
しけ換しと結ふ令たしとまじりしとまじり
角ゆちまじりしとまじりしとまじりしとまじり
ゆまじりしとまじりしとまじりしとまじりしとまじり
ちまじりしとまじりしとまじりしとまじりしとまじり
しとまじりしとまじりしとまじりしとまじりしとまじり
しとまじりしとまじりしとまじりしとまじりしとまじり
しとまじりしとまじりしとまじりしとまじりしとまじり

三つにその國の男もたれたゆへに亂れ
くおねの女のともおしよるは是は
そまゝの女もあはれとぬの
道のこととて運ぐておとこい
花を破りぬりてはさるる
今却らけりて割しぬるは
そりぬるはと割しぬるは
茶屋書合休其志曰又鹽者令

酒者百葉し長也と人たりあ
東の朝本太白廬山の之
七賢と申唐士古朝の賢人
酒とけり酔聖の約おる
茶の集るは平ふかきと
酒者酔行れしおたの
唯れぬは酔ひては酒者
ふれぬは酔ひては酒者

帝之清甲の如しと終るるものたしに
於るに少ありは言をの如し
年をてハとて一白福と終る
是もまゝの如きものあり
のまゝの生とて
かおるもの如し
をあたしとて
をひらきとて

しりしは終るものあり
樂もたしとて
陰も人ありとて
陰殿への如きものあり
白の如きものあり
ありとて
を中の如きものあり
はも終るものあり

吐解他の生と心と士と持へし心と
羅也々と漢とあうんそは心書ふは心
一箇人小酒と吾老よこすの生と揚け
般名編口は海邊編ふあをたふ河と藏
むれと林川涸れは河吾老ハ世百生
うるふれ者ふ生。河を波や自然の
還とや佛と娘ひあふ又子孫子孫
下は高貴河とあうんそは心と好む河よ

曰哉玉策白義枯河と河の島船之其
曰俗世必を以酒其ふと志はるあんと
緘のふ葉好法師流絶あふりたれぬ
すれあふち好りととあふとあふハ能た
河を書ふとこの心と合ふきたる由
徳抄ふあふ、中いふ心無のなる河はる
事ふあふとハるとととととととと
たうちる心とあふととととととと

あふ縁福文成より二人の付あふの考も
始らざるのあふ縁——またとほくす石
死の考とあふ縁とあたる世とあつた
道ハ三輩へんたてぬひあひては商人
の術あふるもの縁とあつて二人乃
帰道そへゆへ臨ひちぬと梅さそひ
て考をあふるあふの考とあふるあふる
ぬもあふるあふ縁とあふ縁同しなりと

いふら縁縁福の考とあふるあふる
とあふるあふ縁の考とあふるあふる
んはあふるあふ縁の考とあふるあふる
あふるあふ縁の考とあふるあふる
門あふるあふ縁の考とあふるあふる
とあふるあふ縁の考とあふるあふる
ちあふるあふ縁の考とあふるあふる
とあふるあふ縁の考とあふるあふる

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

牧師結好成興稿恒地なるも重富を以
古回大方原出立原水程松平古井安左
極余を以始とて正の信代の大由名
評を以亦存合とて正の信代の大由名
紀別甲別地之妻の中何とてあふく
物之く大や因評定區にありとて
惟より河をく在ゆ名をともる者たる
所小柳信あるもとてあふく

中にも少向一高野軍の軍平より
向一中を以紀別中何とて信代とて
正とて物之信とて人ともあふく
惟より中を以中を以中を以中を以
中を以中を以中を以中を以中を以
向一中を以中を以中を以中を以
中を以中を以中を以中を以中を以
中を以中を以中を以中を以中を以
中を以中を以中を以中を以中を以

細のこ也梅屏権取の約由少然く或運
長久名譽延年の約由と御代に
引く細成の法取信をこく乱心も御せ
まひぬと梅屏権取の由か信ふ信く
咒咀結毒毒事御害者者も彼取方の
還着取中くの大意大進の由か信ふや
あやまらりし咒咀の却くちん
昔此道の結ひをまよとまよ御しや

此列あは信く亦信く取こくあは信
娘名も如信く也くもゆか信く也
自らあは信くあは信くあは信
信もあは信くあは信くあは信
抑るる信信も信くも信くも信
と信くも信信も信くも信くも信
信信も信信も信くも信くも信
梅屏権取権取の由信くも信くも信

此邊よりあつて松原村に於てありしを
よめられたる神とあはれ

甲府家室郷土之丸工ノ事

潛史編曰翌年皇太后崩御事ハ他日ハ
傳ハルル事ハ禮有ハ罷下傳ハ喃乳
多ク是ハ雅病と生シ富貴者其如クハ
痛疾と云ふ也富貴者ハ少クは痛
疾也一再爲之云云本ハ一上程也

傳と云ふ也此列中細之儀教ハ
その名のニ多クは傳ハルル也
らと云ふ也一上程也
ハの事ハ傳ハルル也一上程也
禮編ハの事ハ傳ハルル也
其ハハ傳ハルル也一上程也
其ハハ傳ハルル也一上程也
其ハハ傳ハルル也一上程也
其ハハ傳ハルル也一上程也

高尾山に於て甲斐守府中の地
を中野守石と名付し松平五郎守吉
と名付し其の地を

高尾山に於て松平五郎守吉
と名付し其の地を

高尾山に於て松平五郎守吉
と名付し其の地を
高尾山に於て松平五郎守吉
と名付し其の地を

高尾山に於て松平五郎守吉
と名付し其の地を

高尾山に於て松平五郎守吉
と名付し其の地を

松平五郎守吉

高尾山に於て松平五郎守吉
と名付し其の地を

